## 【戸手学区】学校再編に係る説明会　概要

＊分かりやすくするため，一部補足を加えています。

**【日時】**２０１９年（令和元年）７月２４日（水）　１９：３０～２１：００

**【場所】**戸手小学校　体育館

**【出席】**参加者　４７人（地域，保護者　他）

行　政　１０人（教育次長，管理部長，学校教育部長　他）

**【内容】**

１　開会

２　あいさつ（教育次長）

３　説明

・新市中央中学校と常金中学校の再編について

・開校準備委員会について

４　意見交換

５　閉会

### あいさつ

**（教育次長）**

・全国的な少子化の進行に伴い，本市においても児童・生徒数が減少しており，1980 年頃のピーク時の約 6 割にまで減っています。一方学校数は，子どもの数が増えていた時代に分離，新設し，現在小中学校合わせて 111 校あり，ピーク時と変わっていない状況です。

・子どもたちの学びや，子どもたちに付けるべき力は変わってきています。これまでは，教師が教え込む授業で，知識・技能を身に付けることが目標でした。しかし，これからは，主体的・対話的で深い学びを通して，自分の力で社会の問題に立ち向かえる力，多くの人と関わり，多様な考えに触れ，他者と協力しながら様々な課題を解決していく力が必要となっています。そうした学びができる教育を行うために，学校には一定の集団規模が必要です。

・また，学校施設の老朽化に伴い，今後，改修や建替えが必要です。その他，ＩＣＴ教育機器の導入，空調設備の整備など，教育環境の充実のための予算は，さらに必要となります。予算を効果的に投入するためにも，市全体の学校の配置を見直して，教育環境を整えていく必要があります。

・学校を再編し，子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばし，これからの社会を生きていくための力を付けていくことのできる，より良い教育環境にしていく考えです。

### 意見交換（出席者から出された意見等）

**■学校再編に関すること**

**○　２０２２年開校とあるが，逆算すると２０２０年度から開校準備委員会ができるということか。常金丸学区は白紙撤回を要望しているが，開校準備委員会の設置が遅れても，開校までの残された期間で準備をしていくのか。**

→（回答）

２０２２年４月の開校をめざし，常金中学校区，新市中央中学校区の地域・保護者の皆さんと意見交換を重ね，理解いただく中で，来年度，開校準備委員会を設置できるように取り組んでいく考えです。

開校準備委員会の設置が遅れ，準備期間が短くなった場合は，協議スケジュールが立て込むことになります。そうならないよう，十分な協議の時間がとれるようにしていきたい。準備期間が足りないと判断した場合は，開校時期を遅らせるということも考えられます。いずれにしても，これから皆さんと意見交換を重ねさせていただき，開校の時期の判断，見極めは，教育委員会が責任をもって行います。

**○　開校準備委員会は，地域，保護者（小学校，中学校）とあるが，設置される場合，戸手小学校からも何名か委員を選出するのか。どのくらいの人数になるのか。**

→（回答）

保護者の代表として，戸手小学校を含む各小学校，各中学校からそれぞれ委員を選出いただくようになります。開校準備委員会の委員の人数は，２５人から３０人まで，各学校から２人程度選出を想定していますが，体制については，御意見をいただきながら柔軟に対応していきます。

**○　中学校は芦田中と新市中央中を選べると聞いているが，それは間違いか。**

**○　戸手小から芦田中へ今年も２０数名進学した。学校選択制度によって，再編後，新市中央中学校の人数が想定している人数よりも少なくなり，また再編ということにならないか。指定学校以外の学校への進学についてはどう考えているか。**

→（回答）

本市では，通学区域を定め，住所地による指定学校に進学することを原則としています。

新市中央中学校区においては，３小学校と中学校が緊密に連携し，９年間の学びを一体的に捉えた小中一貫教育を実施しています。この小中一貫教育の取組が，中学校進学によってさらに生かされることが教育の充実につながるものと考えています。

学校選択制度は，保護者や生徒の多様なニーズに応えるため，中学校では教育内容や部活動等を理由に学校を選択することができるものですが，指定学校を原則とする趣旨を，保護者，児童に周知していく考えです。

**○　福山市の方針が再編と書かれているが「統廃合」ではなく，「再編」で話を進めるということか。**

→（回答）

規模の大きい学校が良いとか，歴史が長い学校が良いということではなく，互いの学校がこれまで培ってきた歴史や取り組んできたこと，特色ある教育活動を大切にしながら，新しい学校としてスタートするという考えです。子どもたちが，再編により広がった地域で友だち関係を広げ，一緒に学び育ってもらいたいという思いがあり，「再編」という考え方で進めています。

**○　再編後の入学生は新しい制服になるが，現在の制服は基本的に使えないということか。**

→（回答）

制服については，開校準備委員会で協議していきます。現在，開校準備委員会を設置しているところでは，経過措置を設けることにしています。新１年生は新しい制服を購入しますが，在校生は今の制服を着てもよいという移行期間を設け，買替え時に新しい制服を購入することにしました。兄弟姉妹からのおさがり等もあることから，柔軟に考えることにしました。できるだけ保護者の負担がかからない方法で検討していきます。

**○　校歌をそのまま残して使うという検討はしないのか。**

→（回答）

校歌や校名についても，開校準備委員会で協議していきます。今の学校のものがよいなど，様々な意見が出ると思います。結果として，開校準備委員会で，今の新市中央中学校の校歌を新しい学校の校歌にすると決まれば，その結果を尊重します。

**○　常金丸学区の方が再編に対して白紙撤回の要望書を提出している。その理由は。**

→（回答）

地域に中学校が必要という思いがあります。この再編計画は突然の話であり，受け入れ難い，開校時期を決めずに話合いをしたいと言われています。常金中学校区は，１小学校，１中学校の校区であり，学校と地域との結びつきが強く，小学校も中学校も地域の方に支えられた教育活動を行っており，このままがよい。また，中学校がなくなると過疎化が進行するといった様々な思いを持たれています。

**○　現在，福山市内で再編の話が進んでいるのは，駅家北小学校，遺芳丘小学校ということだが，それ以外にもあるか。開校が決まり，２年間で進める中でどのような問題が話合いの中で出てきているのか。**

→（回答）

開校が決まっているのは，駅家北小学校と遺芳丘小学校の２校です。この他に，千年中学校区と内海中学校区の５つの小学校と２つの中学校を再編し，１年生から９年生までが学ぶ義務教育学校を現在の千年中学校の場所に作る計画と，山野，広瀬，加茂地域において，小学校同士，中学校同士の再編の計画があります。いずれも２０２２年４月の開校をめざしています。

開校準備委員会では，委員の皆さんは，新しい学校の開校に向けて，前向きで熱心な議論をされており，感謝しています。卒業制作の取扱いや制服など，どちらかに合わせる，折り合いを付ける場面もありましたが，委員会において方向性をしっかりと話し合い，互いを思いやり，納得して結論を導いていくという形で進められています。

**○　開校準備委員会を設置している学校の保護者から，スケジュールにゆとりがないという話を聞く。これから話合いをしていくうえで，もう少し時間にゆとりのある計画にはならないのか。２年間という期間は妥当なのか。**

→（回答）

委員の皆さんは，ＰＴＡや自治会の役員から選出されている方が多く，開校準備委員会の他にも多くの会議に出席されています。開校準備委員会の中に設けた部会の会議や閉校記念事業の準備，地域での様々な話合いなど，負担が大きいという声を聞いています。そういう中でも前向きに話合いをしていただき，概ねスケジュール通りに進めることができています。もっと時間に余裕をもってということもあると思いますが，教育委員会としては，できるだけ早く再編し，子どもたちに，より多くの友達の多様な意見に触れながら，学び合い，協力し合って力を付けていく環境を整備するという思いを強く持っています。そのことを理解していただき，委員の皆さんに御協力いただきながら，話合いを進めています。

計画を出す限りは，目標を定める必要があり，２０２２年４月という時期をお示しています。今後も，開校時期を含め，しっかりと話合いをさせていただきます。

○　概ね６年先までの児童生徒数は分かるとのことだが，新市中央中学校区の中で小学校が再編する可能性はあるのか。

→（回答）

既に６歳児までは実存しているので，実数を踏まえ推計しています。その後については，一般的な方法で推計しています。今後，全市の学校を望ましい規模に整えるため，段階を追って第１要件，第２要件，第３要件の順に取組を進める計画です。新市中央中学校区では，戸手小学校が一番児童数が多く適正規模であり，新市小学校，網引小学校と常金丸小学校は全て第３要件に該当しています。いずれの小学校も当面，児童数を維持できる見込みであり，今後すぐに再編ということは考えていません。

■教育に関すること

○　小規模校は生徒同士のつながりが強くなり，先生の目が届きやすいという利点がある。中学校は大規模校と一緒になることでメリットがなくなるのでは。

→（回答）

今後も，生徒数は減っていきます。少人数の学びのメリットもありますが，規模が小さくなりすぎると，「多様な人とともに経験を重ねていく」「他者と一緒により良い解（答え）を導き出す」といったことができにくくなってきます。学校での学びを通して，子どもたちに，様々な考えを尊重し，他者と協力して新たな価値を創造することのできる力を育成していくためには，一定の集団規模が必要であり，より望ましい教育環境の中で子どもたちを育てていきたいと考えます。

■その他

○　教員の残業が多いと聞く。教員に対するフォローの取組などは進んでいるのか。

→（回答）

数年前から様々な取組を行っています。授業以外の業務を支援する校務補助員の配置や，教職員の授業改善による準備時間の削減，部活動休養日の土日のいずれか１日を含む週２回実施，教育委員会として保護者の方に１７時以降の学校への電話を控える依頼などの取組により，子どもと向き合うための時間の確保や作業量の削減などにつながり，残業時間は減少しています。引き続き，取組を進めていきます。

○　戸手小学校は建て替えると聞いている。スケジュールや規模はどう計画しているのか。戸手小学校のエアコンはいつ設置予定か。

→（回答）

今年度，校舎の建替えの設計を行う予定です。学校規模は，現行の規模，クラス数を維持する規模を想定しています。

エアコンは，今年度中に市内の全ての学校に設置し，来年の夏から使用できるよう取り組んでいます。